

「辞書」「新聞」「読書」「図書館」を活用し、「読解力」を身に着けよう
—〈開倫塾創業45周年(Since1979)記念事業〉—

開倫塾

塾長 林明夫

開倫塾は、おかげさまで2024年10月に創業45周年(Since1979)を迎えます。
〈開倫塾創業45周年(Since1979)記念事業〉として、「辞書教育」「新聞教育(N I E)」「読書教育」「図書館教育」に2024年～2029年までの5年間チャレンジ、「読解力」を育てます。

Q 1 : 「読解力」とは何ですか。

A : 「読解力」とは、文字・活字はもちろん、画像やA I (人工知能)を含め様々な情報を論理的・分析的に「読み解く力」です。



Q 2 : 「読解力」は役に立つのですか。

A : (1) 学校の勉強では教科書や教材などを用います。そこで、教科書を用いて「予習」や「授業」を受け、「復習」をするときに、その内容を「理解」するのに「読解力」は役に立ちます。

(2) 先生の授業も、その内容を「理解」するのに「読解力」は必要です。

(3) 確認テストや単元テスト、定期テストや実力テスト、模擬試験や入学試験など、すべての「テスト」を受験するときに、問題文や設問を、論理的・分析的に読み解き、正解を導くのに、「読解力」は欠かせません。

○「試験時間内」に問題文や設問を最後まで論理的・分析的に読み解き、正解を導く。そのとき、「読解力」が不足するとどうなるか。テストでよい点数を取り、第一志望校に合格することは難しい。

○このように、「読解力」は、学校の勉強や入学試験に欠かせません。役に立ちます。



Q 3 : 「仕事」や「社会的活動」、「よく生きる」ために「読解力」は必要なのですか。

A : (1) 「仕事」とは、「もの」や「サービス」を「お客様」に提供して、お客様の困っていることや問題を解決することです。

(2) また、「社会的活動」とは、社会の課題を知り、それを解決することです。

(3) 更には、「よく生きる」には、自分の「したいこと」「できること」「しなければならないこと」を自分の力で探し出し、実行に移すことが大切です。



- (4) このように、「仕事」「社会的活動」「よく生きる」ためには、世の中の今までの歴史や今の様子・状態と、これからどのような世の中になるのかを調べ、考えなければなりません。
- (5) そのためには「辞書」を用い知っている「ことば」を増やし、「読解力」を身に付けて、「新聞」を毎日読み、「読書」をし、様々な情報を自分の力で読み解くことが欠かせません。

Q 4 : では、様々な情報を読み解く「読解力」は、どのように身に着けたらよいのですか。

A : (1) 「辞書」「新聞」「読書」「図書館」に「慣れ親しみ」、「徹底活用」、「学習習慣」とすることが大切。

(2) よくわからない「ことば」に出会ったら、「気持ちが悪い」と考え、必ず、「辞書」で調べる。できれば、「紙の辞書」で調べる。

○ 「辞書」で調べたことは、ノートに「書き写す」。「音読練習」や「書き取り練習」をし、「定着」させる。ことばは力、自分で身に付けている「ことばの数」、「語彙数」は力です。「読解力」には、「ことばの数」「語彙数」が重要です。

(3) 「新聞」を、自宅で毎日読み、「自分で考える力」、「批判的思考能力」を身に付ける。「新聞」を毎日読み続けることで、最新の情報を、速いスピードで正確・分析的に読み解く力、「読解力」が身に着きます。毎日、自宅や職場に配達される「新聞」は、日本の宝物、日本の文化そのものです。しっかりと、毎日読みましょう。

(4) 「読書」とは、「作者・著者との時空を超えた対話」です。国語だけでなく、学校で学ぶすべての教科書で紹介されている作家や著者の「代表的な作品」の中で、お気に入りの作品を、たとえ1冊でもOKですから、1ページから最後までゆっくりと腰を落ち着けて、一語一語ていねいに「読み解く」。一つの作品を、何回も何回も、できれば、5～6回、繰り返し読み返す。そうすると、「読解力」と同時に、「思慮深さ」「自省心」「省察力」「自分自身を振り返る力」が身に着きます。気に入った作者・著者の代表作は、全部読む。できれば、「全集」で全作品を読む。

(5) そして、「意味調べノート」「新聞切り抜きノート(スクラップ・ブック)」「書き抜き読書ノート」に、辞書で調べたことや気になる新聞記事を切り抜くこと、文書を書き抜くことをおすすめします。

* 「図書館の新聞」は「公共物」ですので、書き写すこと。



Q 5 : 「図書館」も「読解力」を身に着けるのに必要なのですか。

A : (1) その通りです。「学校図書館」「公共図書館」こそ、辞書や新聞・読書に「慣れ親しみ」、「学習習慣」とする絶好の場です。

(2) 学校に行ったら、毎日1回は「学校図書館」に行くこと。

(3) 週や月に何回かは、地域の「公共図書館」に出掛け、活用すること。

(4) 大学に進学したら、毎日何回か「大学図書館」に行き、徹底活用すること。自分の勉強や研究を進めること。



Q 6：社会に出たらどうしたらよいのですか。

A：(1)社会に出たら、いくつかの「公共図書館」を組み合わせ活用。「一生勉強、一生青春」「人生は青天井、一生青天井」の充実した人生を送ることができます。

(2)「辞書」「新聞」「読書」、そして「図書館」を最大活用して「読解力」を身に付け、充実した「小中高生時代」「大学生時代」「社会に出てからの豊かな人生」をお送りくださいね。

(3)2024年10月に創業45周年を迎える開倫塾では、「開倫塾創業 45 周年事業」として、創業50周年の2029年10月までの5年間、「辞書・新聞・読書・図書館に慣れ親しみ、『学習習慣』とし『読解力』を身に付けよう」の運動を行います。2024年9月31日までは、その準備期間です。是非、ご参加ください。

Q 7：学習塾、予備校、私立学校の経営幹部の皆様にお伝えしたいことは何ですか。

A：(1)医学部医学科や東大・京大・慶大・早大に合格させるにはどうしたらよいか。辞書・新聞・読書・図書館に慣れ親しみ、学習習慣・生活習慣とし、「読解力」を身に付けることが最も効果的であることは、誰でも知っています。

(2)ならば、なぜそれを前面に押し出さないのか、不思議でなりません。

(3)すべての教科学習の前提は「読解力」です。「読解力」は、テスト勉強でも身に着きますが、「辞書・新聞・読書・図書館の活用」は、その数十倍の効果があります。ご一緒に「読解力」を育てて参りましょう。

Q 8：最後に一言どうぞ。

A：今月もおすすめの本をご紹介します。

(1)一冊目は、セネカ著「人生の短さについて」岩波文庫です。「え、いまさらセネカ？」とおっしゃらないで、短い本ですから、是非、我慢して最後までお読みください。「時間が足りない」「人生は短い」と感じている先生にはうってつけの「名著」です。

(2)セネカに続いて二冊目は、キケロ著「老年について」岩波文庫 2004 年 1 月 16 日刊です。セネカとキケロの2冊は「いかによく生きるか」を考える上で参考になります。

(3)三冊目は、京都大学前総長 山極寿一著「森の声、ゴリラの目、人類の本質を未来へつなぐ」小学館新書 2024 年 2 月 6 日刊です。

(4)四冊目は、ジェレミー・リフキン著「レジリエンスの時代 再野生化する地球で、人類が生き抜くための大転換」集英社 2023 年 9 月 26 日刊です。山極先生の御著書と合わせて読むと「レジリエンスの時代」の生き方が少しずつ理解できます。

(5)五冊目は、日刊工業新聞記者 松木喬著「自然再生をビジネスに活かすネイチャーポジティブ、企業成長につなげる環境世界目標」日刊工業新聞 2023 年 5 月 30 日刊です。

(6)六冊目は、ゲイリー・ハメル著「ヒューマノクラシー『人』が中心の組織をつくる」英治出版 2023 年 12 月 6 日刊です。

(7)七冊目は、グレゴリー・ベイトソン著「精神と自然、生きた世界の認識論」岩波文庫 2022 年 1 月 14 日刊です。

○(1)～(7)はすべて関連しています。是非、ご一読を!!

— 4 月 3 日記 —